

## 感染症情報 6月26日～7月2日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1354例(堺市	77例)
②手足口病	1309例(堺市	117例)
③溶連菌感染症	610例(堺市	33例)
④ヘルパンギーナ	226例(堺市	9例)
⑤咽頭結膜熱	151例(堺市	9例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	15例(堺市	0例)
---------	--------	-----

が報告された。

感染症報告数は前週から20件増の4,062件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比18%減、堺市では前週比10%減であった。2位の手足口病は府下で前週比36%増、堺市で86%増であった。定点当たりの報告数は前週4.8→今回6.5でさらに増加している。原因ウイルスとしてコクサッキーA6型ウイルスとエンテロウイルス71型が主に検出されているとある。溶連菌感染症は府下で前週比14%減、堺市で35%減であった。ヘルパンギーナは府下では前週から22%増、堺市では前週18例→今回9例であった。咽頭結膜熱は府下で前週比11%減、堺市で前週14例→今回9例であった。

インフルエンザは府下では前週38例→今回15例であった。堺市では前週2例→今回いよいよ0になった。

麻疹や風疹の報告はなかった。